

平成二十八年年度 入学試験 学力考査 (国 語)

〈答えは解答欄に記入〉

受験番号
名 前

〔二〕 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

個性を解放するときはいま

「日本人には個性がない」としばしば言われる。外国人には見分けがつかないと揶揄^{※やゆ}される。日本人自身も、そう思い込んでいふしがある。だが、日本人に個性がないなど、とんでもない。事実^aにソク^aしていえば、日本人は素材としては一人ひとりきわめて個性的である。〔A〕(中略)

そもそも日本の社会には、個人が集団に合わせようとする文化がある。聖徳太子が制定したという「十七条の憲法」にある「和を以て貴しと為す」という言葉に、すでに①それは表れているといえる。歴史的に見て、日本の文化がずっと個性を抑制する方向にあったかという、そういうわけでもない。数々のユニークな個性がひしめき合っていた時代もあった。むしろ、個性というものが時おり、ハナつあまりに激しい作用に参るあまり、集団に合わせる傾向へと舵^かが切られ、それが現代まで続いているのではないだろうか。織田信長や豊臣秀吉をはじめ、戦乱の世にあまりにも強烈な個性が輩出して、日本人はすっかり懲りてしまったのだろう。続く太平の世が、今日にいたる日本人の基本的な性格をつくり上げた。〔B〕

〔あ〕、現代では、根回しや談合^{だんごう}という、「没個性」があまりに強く害を及ぼしている例が少なくない。時代は、そろそろ違う方向へ転じる時機にあるようだ。グローバルな競争がいやでも激化する中、いつまでも没個性ではいられない。和を貴ぶ心を持った上で、美しい形で個性をハッキリしたい。〔C〕

自分自身を見つめてみる

〔I〕の仕組みからいえば、自身の個性を掘り下げるためには、自分という存在を客観的に見る「メタ認知」のプロセスが大切になる。ここで重要なのは、「自分が何者であるか」という「1」を、固定化して考えないことである。常に他者との関係の中で柔軟に変化する存在として、自分の個性をとらえることが大切である。「絶対視しないこと」は、「2」に対しても忘れてはいけない。「自身」について考える際にどうしても避けなければならない「3」は、自分自身の立場がこの世界の中で特別なものかと思いついてしまうことであろう。②それを避けるために必要なのは、自ら進んで偶有性^{※くゆうせい}の中に身を置くことである。予測できる規則的なことと、予想できない不確実なことが入り交じった状態にあるのが、人が生きるうえでの本来の姿である。私は、「いま、ここ」にいる現実の私とは、まったく異なる「4」であった可能性がありえた、という思念。規則性と不規則性のはざま。そこから遠ざかろうとすると、生命力は失われる。「偶有性に身を置く」ということは、③従属^③することではない。〔い〕それは主体的な意志であり、覚悟である。〔D〕

個というものがそもそもは関係性を不可欠とするということは、脳科学的にも理にかなっている。神経細胞の一つひとつには「1」はなく、ネットワークをつくって関係性を持つことで意識が生じるのだ。〔E〕

(PHP新書 茂木健一郎『ひらめきの導火線』より)

※揶揄・・・皮肉を言つてからかう

※偶有性・・・半ば偶然に、半ば必然に起こること

問一 傍線部 a～e のカタカナは漢字に直し、漢字には読みを書きなさい。

問二 文中の 1～4 に入る言葉を後の語群から選び、記号で答えなさい。

(語群) ア 畏^{おそ} イ 私 ウ 個性 エ 自分

問三 文中の 〔あ〕と 〔い〕に入る言葉をそれぞれ選び、番号で答えなさい。

- あ 1 そのうえ 2 なぜなら 3 しかし 4 すると
い 1 ただし 2 もちろん 3 たしかに 4 むしろ

問四 傍線部①の「それ」のさす内容を本文中から二十字以内で抜き出し、その最初と最後の五字を書きなさい。(句読点を除く)

問五 傍線部②の「それ」のさす内容を本文中から三十五字以内で抜き出し、その最初と最後の五字を書きなさい。(句読点を除く)

問六 〔I〕に入る漢字一字を本文中から探して書きなさい。

問七 次の文章は、本文中から抜き出したものである。どの位置にあつたものか 〔A〕～〔E〕の中から適切な場所を選び、記号

で答えなさい。

ア 「日本」「日本人」という概念についても同じだ。これまでに私もその言葉を何度も使っているが、その対象を固定的にとらえることは危険である。また、「関係性」も重要である。一人ひとりの違いとは、まわりとの関係があつてわかるものだ。イ だれしも小学校時代を思い出せば、クラスの中にはじつにいろいろなタイプの人間がいたのではないだろうか。そのキャラクターのばらつきは、いまではどこに行つてしまったのか。

問八 傍線部③と対応する言葉を本文中から二字で探して書きなさい。

問九 次の1～4の中で、本文の内容に最も合うものを一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 日本人には個性がないと言われているが、昔から集団に合わせるといふ文化なので仕方がない。
- 2 日本人には個性がないと言われているが、織田信長など数少ない個性的な人物はいる。
- 3 日本人には個性がないと言われているが、個性を考える時に関係性を意識しながら固定化しない考え方が重要である。
- 4 日本人には個性がないと言われているが、日本には独自の文化があり、その文化を創る日本人は当然個性があると言えるだろう。

〔二〕 次のイ〜ハの作品の作者を後の語群から選び、番号で答えなさい。

イ 城の崎にて ロ 細雪 ハ 河童

〈語群〉

1 芥川龍之介 2 夏目漱石 3 谷崎潤一郎 4 川端康成 5 志賀直哉

〔三〕 次の傍線部の品詞名を漢字で書きなさい。

① 彼は素直だ。

② もし雨が降ったら中止だ。

③ 子どもがいる。

④ この本は面白い。

〔四〕 「個性」について、自分の考えを二百字〜四百字で書きなさい。

平成二十八年年度入学試験学力考査（国語） 解答用紙

受験番号
名 前

問九	問八	問七 ア	問六	問五	問四	問三 あ	問二 1	問一 a
		イ		ン	ン	い	2	b
				ン	ン		3	c
				ン	ン		4	d
				ン	ン			e

①	イ
②	ロ
③	ハ
④	
